

第21回高知県支部学術集会

学術集会会長：高知県立あき総合病院病院長 前田博教

2025年8月24日(日)、高知市文化プラザかるぽーとにおいて、第21回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会を



会場風景

開催いたしました。テーマは「高知が示すこれからの地域医療のカタチ」とし、一般演題発表、特別講演を行いました。特別講演では、千葉大学医学部附属病院副病院長(病院経営管理学研究センター長)の井上貴裕先生をお招きし、「令和8年度診療報酬改定を踏まえた戦略的病院経営」と題し、同改定について、今までの議論を踏まえ予想される論点をあげ、高知県内の病院のデータ等を踏まえ、取り組むべき事項等についてご講演いただきました。

また、一般演題発表では、様々な職種のメディカルスタッフにより、地域連携、医療安全、感染対策、病院運営、組織運営など80題の演題が発表され、活発な意見交換が行われました。

当日は349名の参加者を迎え、盛会のうちに終了いたしました。本学術集会の開催にあたり、ご支援・ご協力を賜りました関係機関の皆様にご心より御礼申し上げます。ありがとうございました。ここに開催のご報告を申し上げます。

第15回新潟県支部学術集会

学術集会会長：長岡赤十字病院院長 藤田信也

2025年9月20日(土)、朱鷺メッセコンベンションセンターにおきまして『そっと寄り添う もっと



会場風景

寄り添う 地域ケア』をテーマとして、114名のご参加をいただき開催いたしました。

基調講演は、長岡赤十字病院緩和ケア科部長佐藤直子先生より「自分らしく生きたい 自分らしく逝

きたい ～すてきな人生の過ごし方～」と題して、日本の現状をふまえた緩和ケア、ACPについてお話いただきました。死に方ではなく、どう生きるかを考えることの大切さを学び、参加者自身が人生について見つめ直す機会となり、大変感銘を受けました。

さらに見附市立病院内科医長 野尻俊介先生、吉田病院長町訪問看護ステーション 高橋康子先生、長岡市福祉保健部 佐藤君子先生、高齢者総合ケアセンターこぶし園 大矢泰三先生より事例報告をいただき、「少ない医療資源を生かした地域ケア・在宅医療の進め方」をテーマとしてシンポジウムを行いました。医療・看護・介護・行政の多様な立場から多角的な視点での提言があり、各職種の活動に大いに寄与する意見交換となりました。

一般演題は、看護補助者ラダーの導入の効果、多職種で意向に寄り添ったがん末期患者のケア、薬剤管理サマリーをツールとした薬薬連携、入退院支援クラウドサービスを導入した転院調整業務についてご発表をいただきました。医療現場の様々な取り組みについて学び、知る機会となり実り多いものとなりました。

今後も新潟県の医療・介護・福祉にまつわる様々な課題に向き合いながら、共に知恵を出し合って進んでいきたいと思っております。本学術集会を開催するにあたり、多大なるご支援、ご協力を賜りました関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

第21回鳥取県支部学術集会

学術集会会長：鳥取県済生会境港総合病院病院長

佐々木祐一郎

2025年9月20日(土)、みなとテラス(境港市民交流センター)において、第21回日本医療マネジメント学会鳥取県支部学術集会を開催いたしました。



会場風景

テーマは、「医療現場におけるタスクシフト/シェア」とし、様々な職種の方々にご参加いただきました。

特別講演では、一般社団法人 病院マーケティングサミットJAPAN代表理事の竹田陽介先生をお迎えし、「共創から始める“愛され病院のつくり方～人も地域もすこやかにする医療マネジメントの新たな可能性～”